



## 川原 秀仁

山下ビー・エム・コンサルタンツ社長

「フロント・ローディング」という業務推進手法が、建設業界の中で盛んに試みられている。これは、一般に製品開発のプロセスで業務の初期工程に負荷をかけた、全体の作業を前倒して進める作業のことであり、できるだけ早い段階で多くの問題やリスクを洗い出し、これを「賢明な投資」であるかにかかっている。そして、投資タイミングの旬はそれほど長くは続かない。中でも建設事業は、膨大な投資金額と作業時間を伴うために、成功を確実にする確かなプログラムと、事業にかかるリスクを高いレベルで回避・軽減できるような推進手法が強く求められる。そこで登場したのが、この

# 全参画者が誇れるプロジェクト推進を

ために、その事業がいかに「賢明な投資」であるかにかかっている。そして、投資タイミングの旬はそれほど長くは続かない。中でも建設事業は、膨大な投資金額と作業時間を伴うために、成功を確実にする確かな

フロント・ローディング手法である。現在、建設業界では、設計会社なら設計作業、建設会社なら設計に加え工事施工作業と、1社単位での前倒し作業はかなり進歩しつつある。それでも、プロジェクト全体を通してみると、計画がうまく進行しなかったり、手戻りが発生したりするケースが多くあること

それを1日でも早く実現化したいと思うものである。そして建設事業は、立場の違う様々な人たちが集結して、得意分野のバトンを取り入れながら目的物を構築していくものである。だから、建設事業のバリエーション全体をスムーズにリレーションしていく、という視点で自らの行動計画を振り返ってみることで、目標を構築してフロント・

ローディングがうまくいけば、たとえ発注等によって主体プレイヤーが変わったとしても、次工程のプレイヤーに最少効率で継承していくことができる。誰もが無駄な作業をしなくて済むし、誰もが懐を痛めなくて済む。実はこれが最良のラスト縮減手段なのである。そのお手本は自動車産業に代表される製造業にある。彼らは、開発・製造の過程で協力会社を含め無駄になるような些細なことでも削ぎ落としシイブすることで、膨大な製造コスト削減と利益増を達成してきた。それに比べれば建設産業にはまだまだ改善と工夫の余地が残っている。

## 所論 諸論

現代の事業は、投資タイミングと時間との勝負である。企業の事業に限らず公共事業や投資ファンド事業

なプログラムと、事業にかかるリスクを高いレベルで回避・軽減できるような推進手法が強く求められる。そこで登場したのが、この

それを1日でも早く実現化したいと思うものである。そして建設事業は、立場の違う様々な人たちが集結して、得意分野のバトンを取り入れながら目的物を構築していくものである。だから、建設事業のバリエーション全体をスムーズにリレーションしていく、という視点で自らの行動計画を振り返ってみることで、目標を構築してフロント・

ローディングがうまくいけば、たとえ発注等によって主体プレイヤーが変わったとしても、次工程のプレイヤーに最少効率で継承していくことができる。誰もが無駄な作業をしなくて済むし、誰もが懐を痛めなくて済む。実はこれが最良のラスト縮減手段なのである。そのお手本は自動車産業に代表される製造業にある。彼らは、開発・製造の過程で協力会社を含め無駄になるような些細なことでも削ぎ落としシイブすることで、膨大な製造コスト削減と利益増を達成してきた。それに比べれば建設産業にはまだまだ改善と工夫の余地が残っている。

発注者が喜び受注者も損をしない参画者全員が誇りに思えるプロジェクト推進手法は、「ジャパン・オリジナル」として世界に発信できる大きな可能性を秘めている。

発注者が喜び受注者も損をしない参画者全員が誇りに思えるプロジェクト推進手法は、「ジャパン・オリジナル」として世界に発信できる大きな可能性を秘めている。